

第1回福山駅前デザイン会議を開催

日時：2018年(平成30年)5月21日(月)15時～17時
場所：福山市役所 大会議室

「福山駅前再生ビジョン」を具現化していくため、駅前とその周辺エリアの将来像や、ビジネスの拠点となる駅前、歩行者に優しい交通環境、人を呼び込む情報発信、公共空間の新しい使い方などについて議論をしました。

福山駅前の再生のために・・・

- 人でにぎわう駅前を日常の姿にしていける。それを現実的に作り上げていくことが、デザイン会議のテーマ。
- 再生ビジョンに沿った**質の高い公共投資と、質の高い民間投資を駅前に集中**させなければならない。
- 大事なものは、公共と民間がお互いに価値を高め合えるような投資を行うこと。
- 市民のみなさんが、使いやすくいいまちだと感じてもらえるような駅前空間に変えていく。
- ハード整備も大切だが、ソフト事業はもっと大切。両方を一体的に考えていく。
- 駅前だけ良くすれば、福山市が良くなる訳ではない。駅前と周辺をつなぐことが必要。
- 小さなリノベーションと大きなリノベーションで再生に向けた本気度を見せることが、更なる民間投資につながる。

エリアビジョンが必要

- 駅前周辺をいくつかの小さなエリア(端から端まで歩いて5分程度のエリア)に分けて、それぞれの**エリアごとに魅力と特徴ある将来像(エリアビジョン)**を描く。エリアビジョンは、質の高い民間投資を呼び込むためのまちづくりの方向性になる。
- まずは、実際にまちを歩いてエリア内の潜在的な魅力を探す「トレジャーハンティング(まちのお宝探し)」を実施する。
- 性格の違う小さなエリアを作ることで、駅前周辺のなかでも価値観や目的で行く場所を選択できるようになる。



ビジネスの拠点として

- 地場産業が元気になることが重要。**継続する産業をいかに育てるか**が非常に大事。
- 飲食・宿泊産業は、駅前で柱になる産業のひとつ。
- 製造業も福山の強み。例えば、デニムなどの素材をもとにして、**製造・販売までを中心部で行える環境**をつくる。
- 駅前に質の高い雇用とやりがいのある仕事を作り出すことが必要。
- 新しくビジネスを始める人がチャレンジしやすい場所であればいけない。

交通環境の充実

- 安心・安全に歩いたり、過ごしたりできることは、駅前を訪れるモチベーションにつながる。
- 車でも来やすい駅前の交通環境が必要。
- **車と歩行者が共存できる環境の形成**に向けた議論が必要。

地域づくり・人づくり

- 面白いコンテンツは、人が運んでくる。**まちづくりを担う人を呼び込み、育てる**ことが必要。
- しっかり考えて自ら行動する、そんな人がまちの中心にいると良い。
- エリアプロデュースは、ゴミ拾いなどすぐにできることから始まる。
- 古くから住む人と新しい人が駅前で**素敵なコミュニティを形成**することが重要。

戦略的な情報発信

- 再生を図るうえで、**質の高い情報発信は大事**。情報により**まちのイメージが作られる**。
- 地場産業を盛り上げるには、上手なプロモーションが欠かせない。
- 情報発信は、市民の自信や人材の呼び込みにもつながる。

公共空間の使い方を変える！

- デザイン会議で、まちなかに**にぎわいを生み出すための、道路や公園といった公共不動産の新しい使い方**を考える。
- 図書館と中央公園はまちを変える大きな要素。新しい使い方をデザインしていく。Park-PFI手法の導入検討もそのひとつ。
- 道路と駐車場はひとつながりの空間。道路の使い方と、駐車場のあり方は合わせて考えないといけない。
- 公共と民間が持っている公共的な空間を垣根なく活用することが重要。

今後の議論の方向性

- これからのデザイン会議では、公共空間をリデザインする検討を行っていく。2回目以降は、具体的なテーマを設定して議論を深める。
- どうやったらストレスなくまちを歩けるようになるか、歩行者と車を分離することが最適なのかということについてもゆるやかに選択肢を設けて議論する。